


在外研究員研究報告書

2019年 9月18日 受付

所 属	文学部		氏 名	白井雅美	
職 名	教授				
研究課題名	グローバル時代における世界的危機と文学の意義				
研究期間	2018年 9月17日 ~ 2019年 9月16日				
滞在期間 ・滞在地 研究調査先	滞在期間	滞 在 地	研究・調査先		
	一年間	イギリス	ランカスター大学		
研究費	万円		研究成果の概要	別記 4,000字程度	
発    表	題 目 名	発表学術誌名Vol. No.		発行年月日	
	著 書 名	発 行 所 名		発行年月日	
	『カズオ・イングロに恋して』	英宝社		2019年5月31日	
	演 題	講 演 学 会 名		講演年月日	

在外研究報告書 白井雅美

在外研究におけるテーマである World Literature のリサーチに関しては、イギリスのランカスター大学を基盤研究機関として、ロンドンの大英図書館、オックスフォード大学の Bodleian Libraries、ケンブリッジ大学図書館、ロンドン Southbank Center の National Poetry Library、マンチェスター大学中央図書館と John Rylands Library 貴重図書館、Victoria & Albert Museum 貴重図書館を中心に資料収集を行うことができた。

さらに研究途中の 5 論文をヨーロッパとイギリス国内において解された国際学会において口頭発表することができた。2018 年 10 月 12 日から 13 日にチェコ共和国の Czech Technical University of Prague に同大学 Faculty of Transportation Sciences, Department of Logistics and Management of Transport) と MAC Prague Consulting and Academic Conferences Associations)が主催して開催された The 13<sup>th</sup> Multidisciplinary Academic Conference in Prague 2018, Czech Association of Scientific and Technical Societies において “Reading Dark Tourism of Central Europe in Literature in the 21<sup>st</sup> Century”を口頭発表した。また、2019 年 6 月 15 日に University of Cambridge の Lucy Cavendish College において London Center for Interdisciplinary Research 主催で開催された “The Pilgrimage and Tourism” International Conference 2019 において “Endless Pilgrimage to Freedom and Place in Mohsin Hamid’s *The Reluctant Fundamentalist* and *Exit West*” を口頭発表した。さらに、2019 年 7 月 15 日から 16 日にかけてオランダの University of Leiden で開催された The 11<sup>th</sup> Engaging with Vietnam Conference 2019: Vietnam in Europe, Europe in Vietnam; Identity, Transnationality and Mobility of People, Ideas and Practice across Time and Space,”において “In Search for a Hybrid Self in Viet Thanh Nguyen’s *The Sympathizer*” を口頭発表した。同会議は、ライデン大学で開催された国際アジア研究者会議の一環であり、オランダ外務省とライデン市との共催事業でもあった。2019 年 7 月 23 日から 25 日にかけてポルトガルのリスボ

ン、University of Católica Portuguesa, Lisbon で開催された The Second MLA International Symposium において“Remapping Dark Tourism between Macau and Nagasaki in Lost Memories and Stories” を発表した。アメリカを中心とする最大学会 MLA (Modern Language Association)が2年前から始めてヨーロッパで国際会議を開催することとなり、2年前のドイツにおいて開催された The First MLA International Symposium に次いで、二回目の参加となった。2019年7月31日から8月2日にかけて University of Oxford の Green Templeton College で開催された Oxford Women’s Leadership Symposium において“Women in the World of Terror Reconsidered in Jhumpa Lahiri’s *The Lowland* (2013) and Han Kang’s *Human Acts* (2016)”を口頭発表した。

これらの口頭発表論文の修正加筆した原稿は、2018年9月に出版した『記憶と共生するポードレス文学——9.11 プレリユードから 3.11 プロローグへ』(東京：英宝社) の続編である『記憶と対峙する World Literature』(仮題) としてすでに草稿が完成しており、帰国後には出版助成に応募する予定で準備を進めている。

また、World Literature 研究の一環として行ってきたカズオ・イシグロ研究をまとめ、2019年5月31日に『カズオ・イシグロに恋して』(東京：英宝社) として出版することができた。また、本書の出版前であったが、2019年4月3日にはオックスフォード大学においてカズオ・イシグロに会うこともできたことは大きな成果であった。

イギリス滞在中に、新たに、World Literature 研究の一環として、今まで着手してこなかった現代イギリス詩人に関するリサーチを開始した。さらに、2009年から2019年まで女性で、スコットランド出身で、レズビアンとして初めて桂冠詞人 (Poet Laureate) を務めた Carol Ann Duffy、スコットランド桂冠詞人 (Scottish Marker) でアフリカ系とスコットランド系の血を引く Jackie Kay、インド系シーク教徒の Daljit Nagra とパキスタン系インド人女性詩人 Imtiaz Dharker, Black British を代表する Lemn Sissay (現マンチェスター大学学長) と現代イギリス詩に変革をもたらした Benjamin Zephaniah の朗読会やパフォ

ーマンスにも参加した。Nagra とは、2019 年 6 月 19 日にロンドンで開催された Royal Society of Literature 主催のワークショップで話をする事ができた。その中で、特に、1980 年代から現代に至って絶大な人気を維持しており数年ぶりに CD アルバムと自叙伝を出版して大きな話題となった Benjamin Zephaniah とのインタビューも、2019 年 8 月 26 日にロンドンで行う事ができた。それらの成果をまとめたものを、『ボーダーを超える言葉たち—現代イギリス詩人の葛藤の軌跡』（仮題）として現在執筆中で、来年度出版する予定である。

また、今回の在外研究の体験記を執筆し、『赤バラの街ランカスターからの便り』（東京：PHP エディトリアル・グループ）として 2019 年秋には出版が予定されている。ここでは、イギリスの教育問題から EU 離脱、ホームレスや貧困問題、多宗教・多民族問題など現在のイギリスが抱える問題を提示し、一般の読者にもわかりやすく解説した。

もう一つの副産物として、ランカスター大学中央図書館と同大学の John Ruskin Library、同大学との提携施設である湖水地方 Coniston の Brantwood と The John Ruskin Museum、Bowness にある Blackwell, The Arts and Crafts House、Kendal にある Abbot Hall Art Gallery, Ambleside にある Armitage Museum and Library におけるリサーチから、湖水地方の保護に貢献した絵本作家ビアトリクス・ポターの人生を掘り起こした。その成果として『ビアトリクス・ポターの謎を解く』（東京：英宝社）を完成させ、すでに再校を終え、2019 年 12 月に出版が予定されている。この本では、ポターを 19 世紀から 20 世紀という激動の時代を生き抜いた一人の女性として解説し、高校生から大学生まで、また一般読者も読者層に入れて、わかりやすく解説した。